

【ACKグループ 重点9分野受注好調 17年9月期は78件超】

重点9分野受注好調

ACKグループ 17年9月期は78件超

ACKグループの野崎秀則社長は30日、東京都内で開いた16年10月～17年3月期決算の説明会で、新しい収益モデルを開拓する重点化プロジェクト9分野の受注動向を明らかにした。通

・運営管理 22件 (16年9月期14件) ▽防災 7件 (11件) ▽再生可能エネルギー・スマートコミュニティ 5件 (9件) ▽交通 (高度化・総合化) 12件 (9件) ▽地域活性化 11件 (7件) ▽事業経営 10件 (8件) ▽都市再生・民間開発 4件 (7件) ▽海外新規開拓 7件 (7件) ▽その他 0 (2件)。

(水害編)の策定を支援する。交通では、交通安全に向けた円形平面交差点「ラウンドアバウト」や2段階横断施設など新たな道路構造・施設の提案を推進。静岡県焼津市では交通データの収集と分析に基づく交流・観光機能の強化に関する共同研究を行う。地域活性化では、公共施設の管理・運営に加え、公園の魅力発信事業を8カ所で開始する。福岡県つきは市では、観光情報を配信するアプリ「おさんぽうきは」を導入し、観光活性化を支援する。

海外は、バン格拉デシュのバンガバンドゥ鉄道橋建設事業やクロスボーダー道路網整備事業、ミャンマーのヤンゴン・マンダレー鉄道整備事業などの大型案件(受注額10億円以上)の受注が好調で、野崎社長は「引き続き攻勢を強める」としている。

インフラ保全・運営管理では、国が推進する生産性向上策 i-Constructionへの取り組みとして、道路予備設計業務でICT(情報通信技術)の活用、橋梁の耐震補強設計業務で既設橋梁のレーザー計測によって点群データを取得し、3次元(3D)CAD化する取り組みなどを展開。防災では、低地帯に位置する災害拠点病院で大

河川の破堤によって生じる可能性のある浸水深や浸水継続時間を考慮したBCP

16年10月～17年3月の連結業績は受注高332億80百万円(前年同期比39.6%増)、売上高209億34百万円(2.3%減)、経常利益6億円(42.5%減)、営業利益6億87百万円(29.1%減)、純利益5億23百万円(17.2%減)。